

妊婦さんの受動喫煙も 「常位胎盤早期剥離」のリスクに

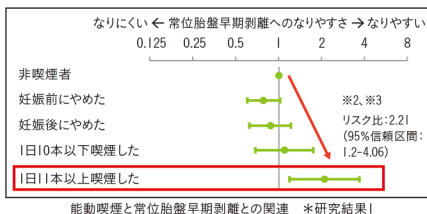
研究の背景と目的

しょういたいばんそうきはくり
「常位胎盤早期剥離(※1)」は、赤ちゃんが生まれる前に胎盤が子宮から剥がれてしまう病気です。母子ともに命に関わる危険な状態になることがあります。発症を予測することは難しく、予防が非常に重要です。これまで、妊婦さん自身がタバコを吸う「能動喫煙」がリスクになることは知られていましたが、周りの人のタバコの煙を吸ってしまう「受動喫煙」がどの程度影響するかについては、国内での詳細な報告はありませんでした。そこで、エコチル調査に参加している約8万人の妊婦さんのデータを用いて、能動喫煙および受動喫煙と常位胎盤早期剥離との関連を調べました。

研究結果

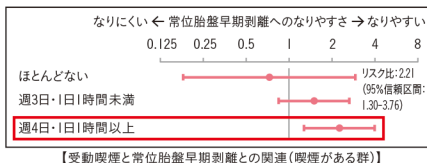
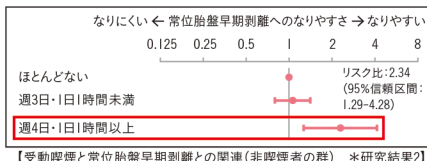
1 自分でタバコを吸う本数が多いほどリスクが高まる

妊婦さん自身の喫煙について調べたところ、1日に吸うタバコの本数が多いほど、常位胎盤早期剥離になりやすいことがわかりました。タバコを吸わない人と比べて、1日11本以上吸う妊婦さんでは、発症リスクが約2.2倍になりました。



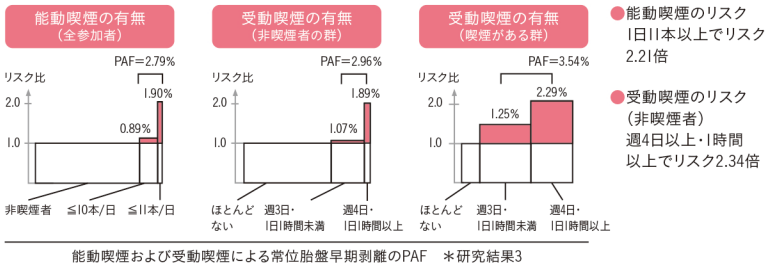
2 自分が吸わなくても、 受動喫煙でリスクが高まる

タバコを吸わない妊婦さんであっても、家庭や職場などで受動喫煙の機会が多いとリスクが高まることが明らかになりました。受動喫煙が「週4日・1日1時間以上」ある場合、受動喫煙がほとんどない人と比べて発症リスクが約2.3倍になりました。



3 たばこをなくすことで防げる可能性がある

集団寄与危険割合 (PAF ※4) を計算した結果、妊娠中の喫煙を防ぐことができれば、社会全体として常位胎盤早期剥離の発症者数を減らせる可能性があることが分かりました。具体的には、妊婦さん自身が喫煙 (能動喫煙) をやめることで全体の発症者数を約2.8%、タバコを吸わない妊婦さんが受動喫煙を避けることで約3.0%減らす (実際に発症するケース100件のうち、それぞれおよそ3件を防ぐ) ことが見込まれます。さらに、タバコを吸う妊婦さんが自身の喫煙をやめ、受動喫煙も避けた場合には、全体の発症者数を約3.5%減らせる可能性があります。



● 能動喫煙のリスク
1日11本以上でリスク2.21倍

● 受動喫煙のリスク
(非喫煙者)
週4日以上・1時間以上でリスク2.34倍

今回の研究から分かったこと

この研究は、日本で初めて妊娠中の受動喫煙と常位胎盤早期剥離の関連を全国規模で明らかにしたものです。妊婦さん本人の禁煙はもちろんのこと、周りの人による受動喫煙の防止も、赤ちゃんと妊婦さんの命を守るために非常に重要であることが確認されました。ご家族やパートナーが喫煙される場合、妊婦さんの近くでは吸わない、あるいは禁煙に挑戦するなど、周囲の協力が不可欠です。

【用語の解説】

- ※1 常位胎盤早期剥離 (じょういたいばんそうきはくり): 通常は赤ちゃんが生まれた後に子宮から剥がれる胎盤が、妊娠中や分娩の途中で先に剥がれてしまう病気。大量出血を起こし、母体や胎児の命に関わることがあります。
- ※2 リスク比: 能動喫煙や受動喫煙があると、常位胎盤早期剥離にどのくらいなりやすくなるか見積もった指標。
- ※3 95%信頼区間: データの平均値や比率などの推定値が実際の値とどれだけ一致するかを示す区間。1を超えていると喫煙群で非喫煙群よりも統計学的に明らかにリスクが高くなることを表しています。
- ※4 集団寄与危険割合 (PAF): ある要因 (ここでは喫煙や受動喫煙) がなくなった場合に、その病気 (常位胎盤早期剥離) がどれくらい減るかを見積もった指標です。

Karumai et al. The impact of maternal smoking and secondhand smoke exposure during pregnancy on placental abruption: A Prospective Cohort Study from The Japan Environment and Children's Study. *BMJ Open*. 2025;15(3): e089499.